

令和8年度 事業概要

国土交通省 近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所



概要



○大戸川ダムの諸元

位置(左岸) : 滋賀県大津市上田上牧町
 (右岸) : 滋賀県大津市上田上桐生町
 ダム形式 : 重力式コンクリートダム
 堤高 : 約67.5m
 堤頂長 : 約200m
 総貯水容量 : 約22,100千m³
 洪水調節容量 : 約21,900千m³
 堆砂容量 : 約 200千m³

○ダムの目的

洪水調節(大戸川・宇治川・淀川の洪水防御)

○総事業費

約1,163億円

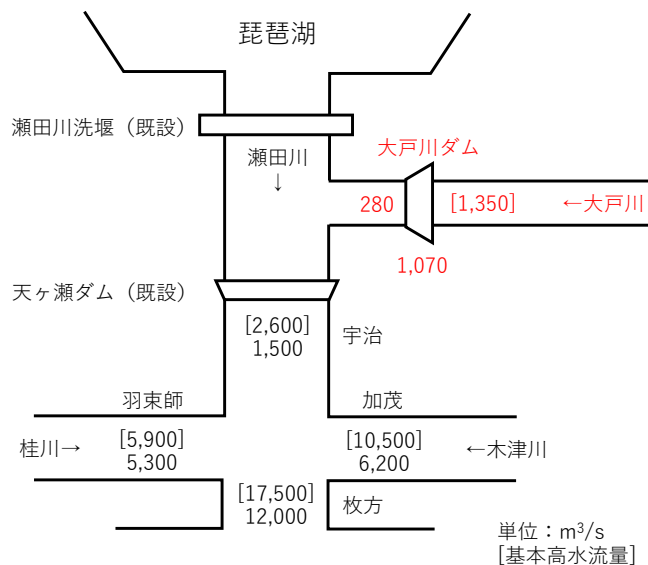
○事業工期

令和15年度予定

事業計画平面図



【流量配分図】



大戸川ダム 建設イメージ

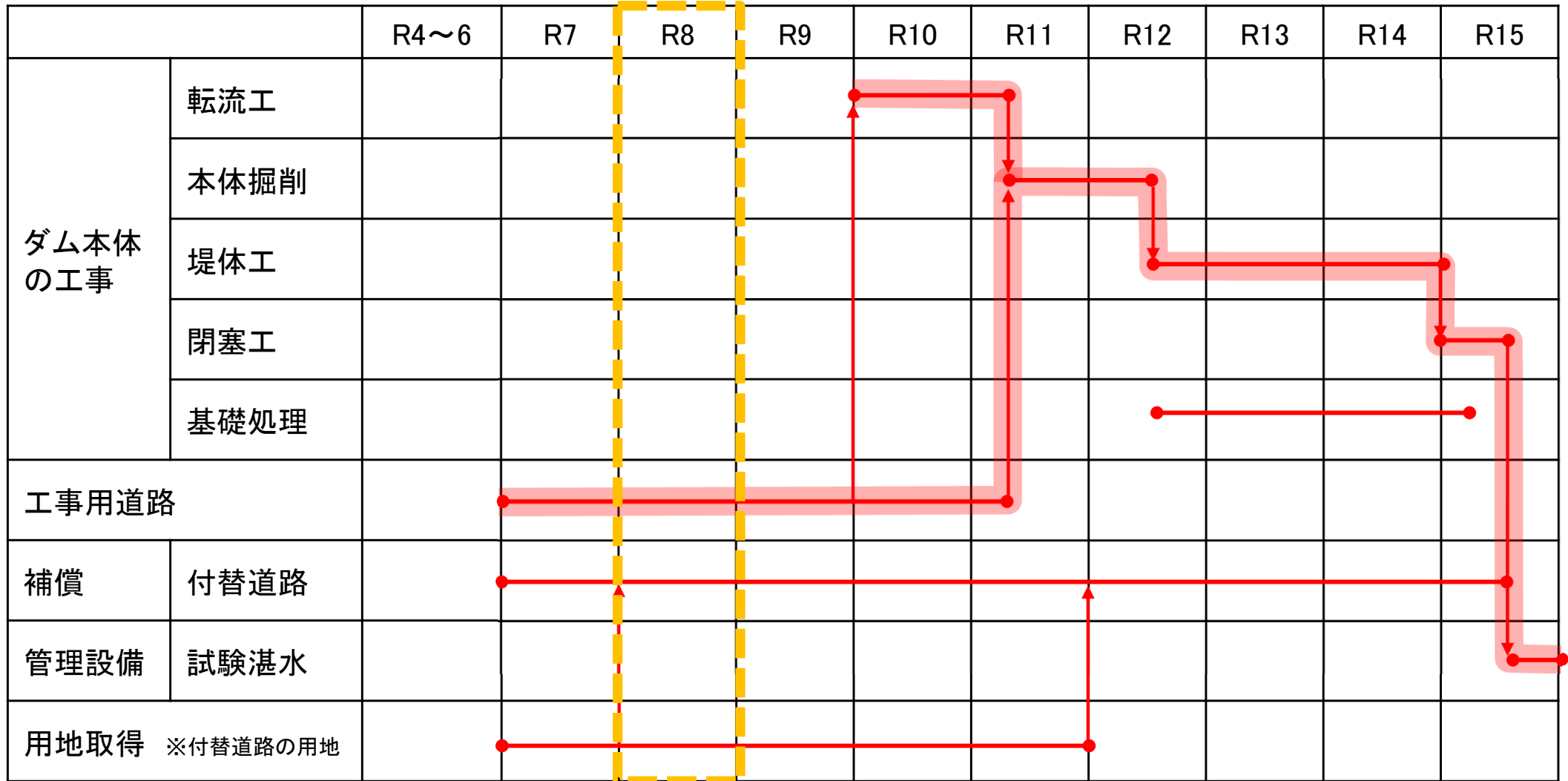


※ 今後の調査・設計等により変更する可能性があります。 1

完成までの道のり



- 大戸川ダムの事業工期は、ダム検証において残事業の完了までに必要な期間の点検が行われ、工事用道路着工から事業完了までに8年間程度を要する見込みであり、令和15年度を事業工期としている。
- ダム本体工事の実施に向けた調査設計等の進捗状況を踏まえ、令和8年度は、ダム本体の修正設計等を継続実施するとともに、ダム本体工事用道路及び付替道県道栗東信楽線（北側）工事を継続実施。



※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

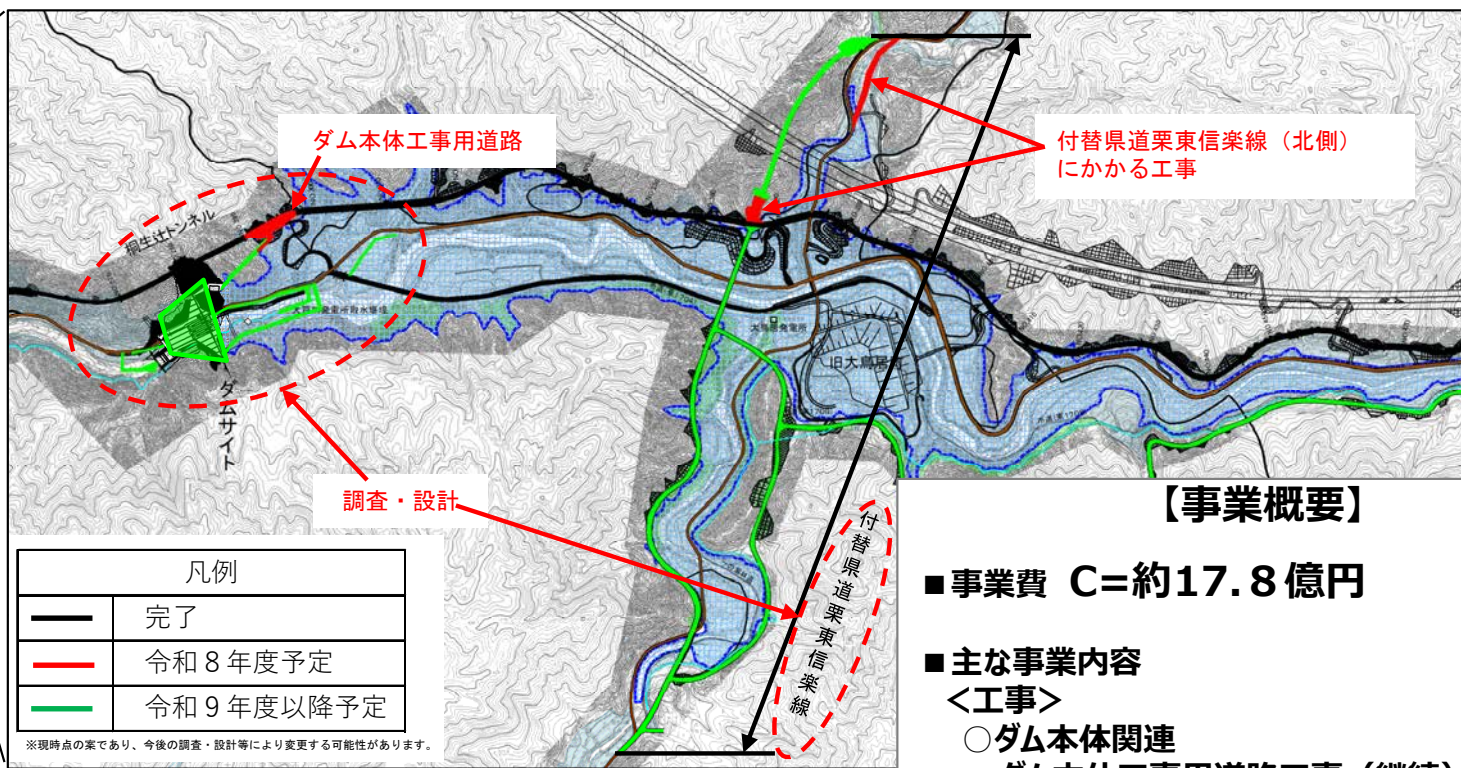
今年度の実施内容



- 令和8年度は、ダム本体工事用道路及び付替県道栗東信楽線（北側）工事を継続実施。また、ダム本体等の修正設計及び水理模型実験等を継続実施。



大戸川 流域図



【事業概要】

■事業費 C=約17.8億円

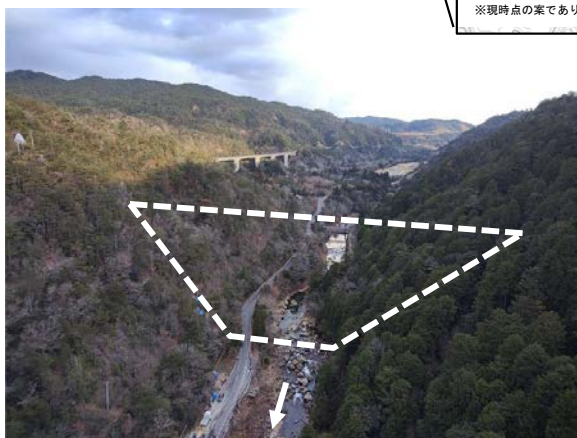
■主な事業内容

<工事>

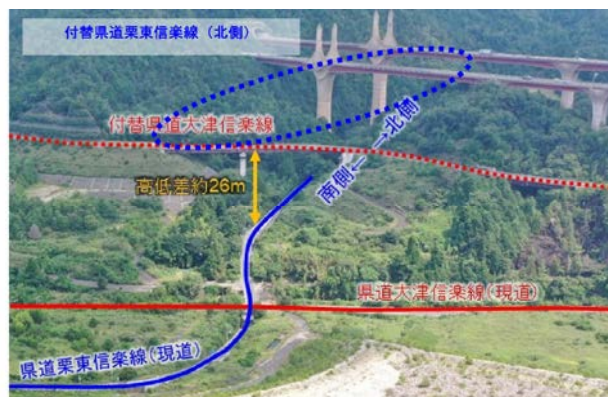
- ダム本体関連
 - ・ダム本体工事用道路工事（継続）
- 付替道路工事
 - ・付替県道栗東信楽線(北側)工事（継続）

<業務>

- ダム本体設計等
 - ・ダム本体等の修正設計及び水理模型実験（継続）
- 付替道路設計
 - ・県道栗東信楽線(南側)の設計（継続）
- 環境保全措置等及びモニタリング調査



大戸川ダム建設予定箇所 現地状況
(令和7年1月撮影)



付替県道栗東信楽線(北側)

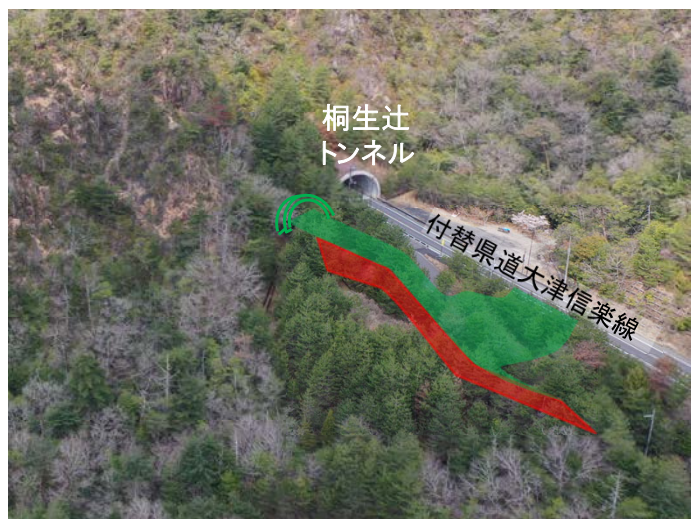
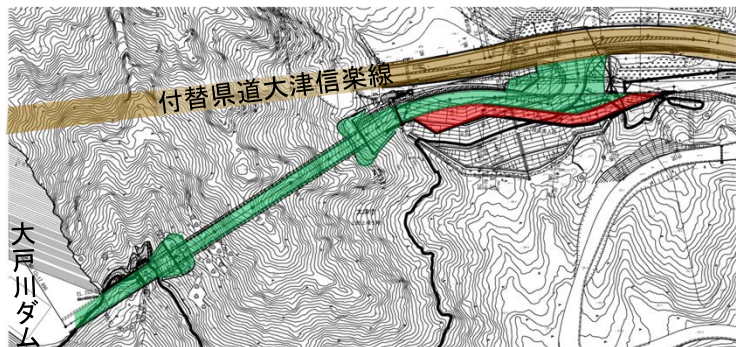
工事実施内容(ダム本体工事用道路工事)



ダム本体工事用道路工事

【主な実施内容】

- 令和8年度は、ダムサイト右岸天端へアクセスするための工事用道路に工事を引き続き実施。



現地状況(令和7年4月撮影)



工事用道路イメージ

※現時点の計画であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

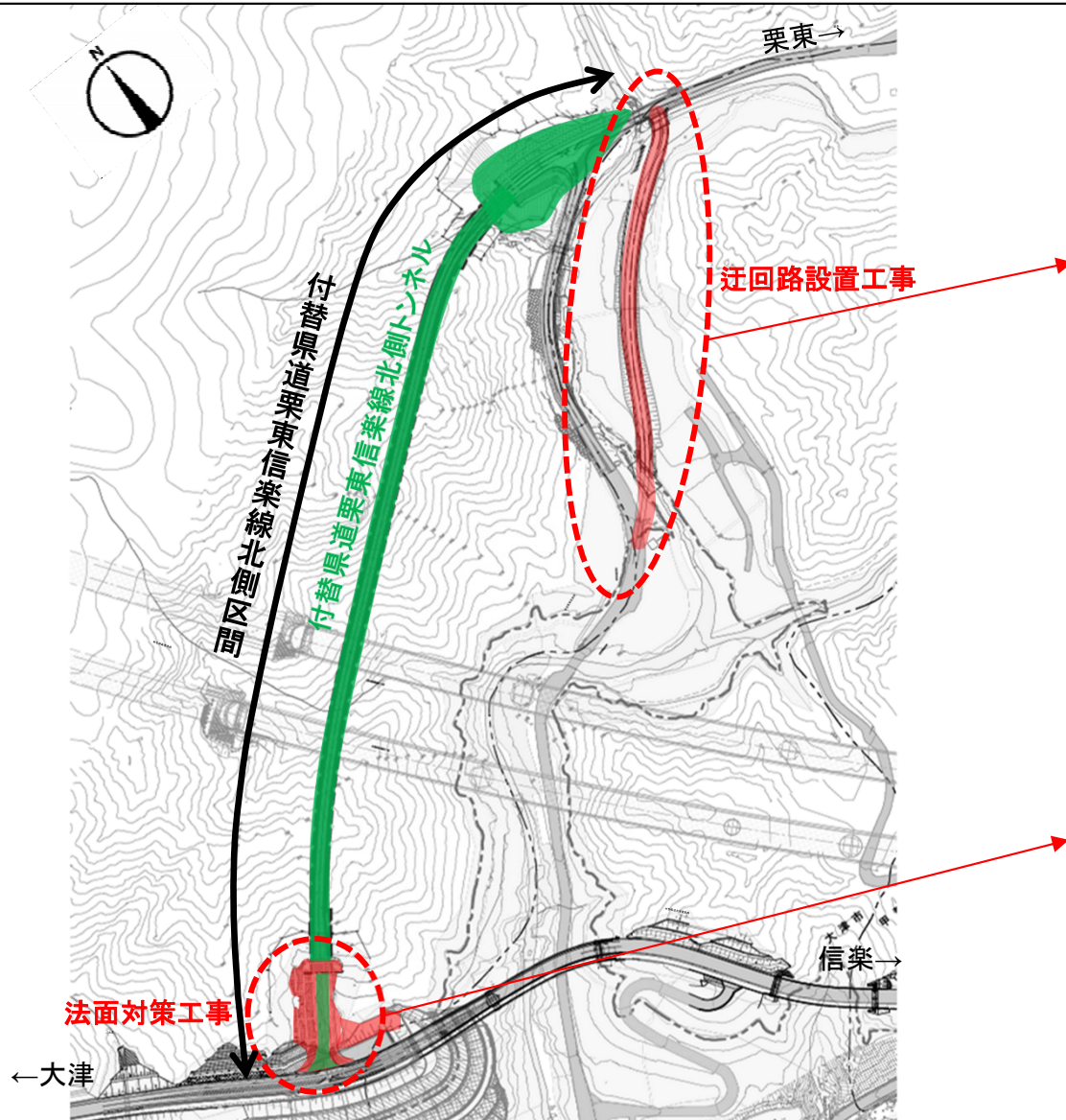
工事実施内容(付替県道栗東信楽線(北側))



付替県道栗東信楽線(北側)工事

【主な実施内容】

○令和8年度は、付替県道栗東信楽線(北側)の法面对策工事及び迂回路設置工事を引き続き実施。



迂回路設置工事 現地状況(令和8年3月時点)



法面对策 現地状況(令和8年3月時点)

※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

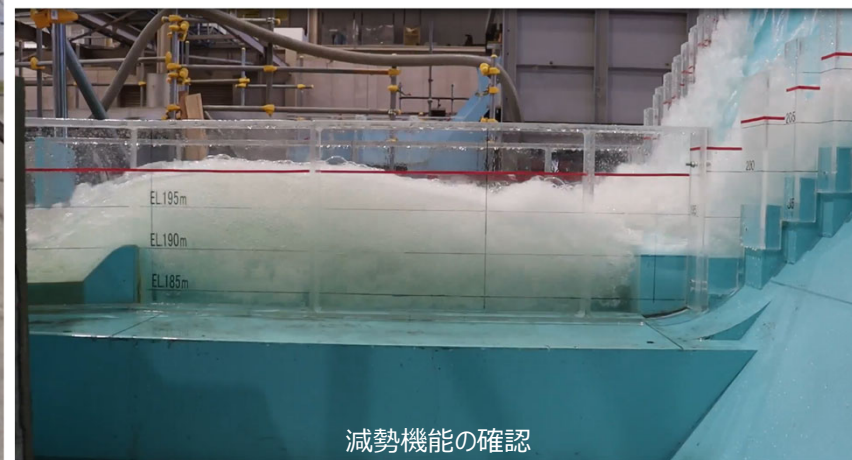
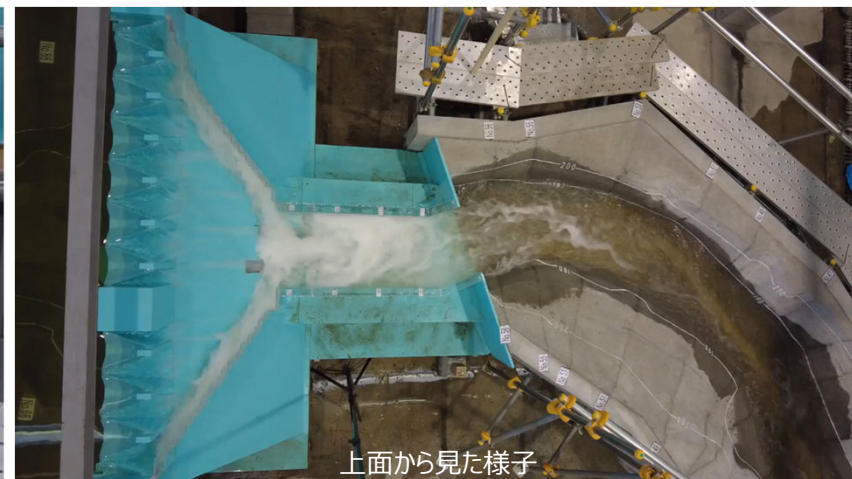
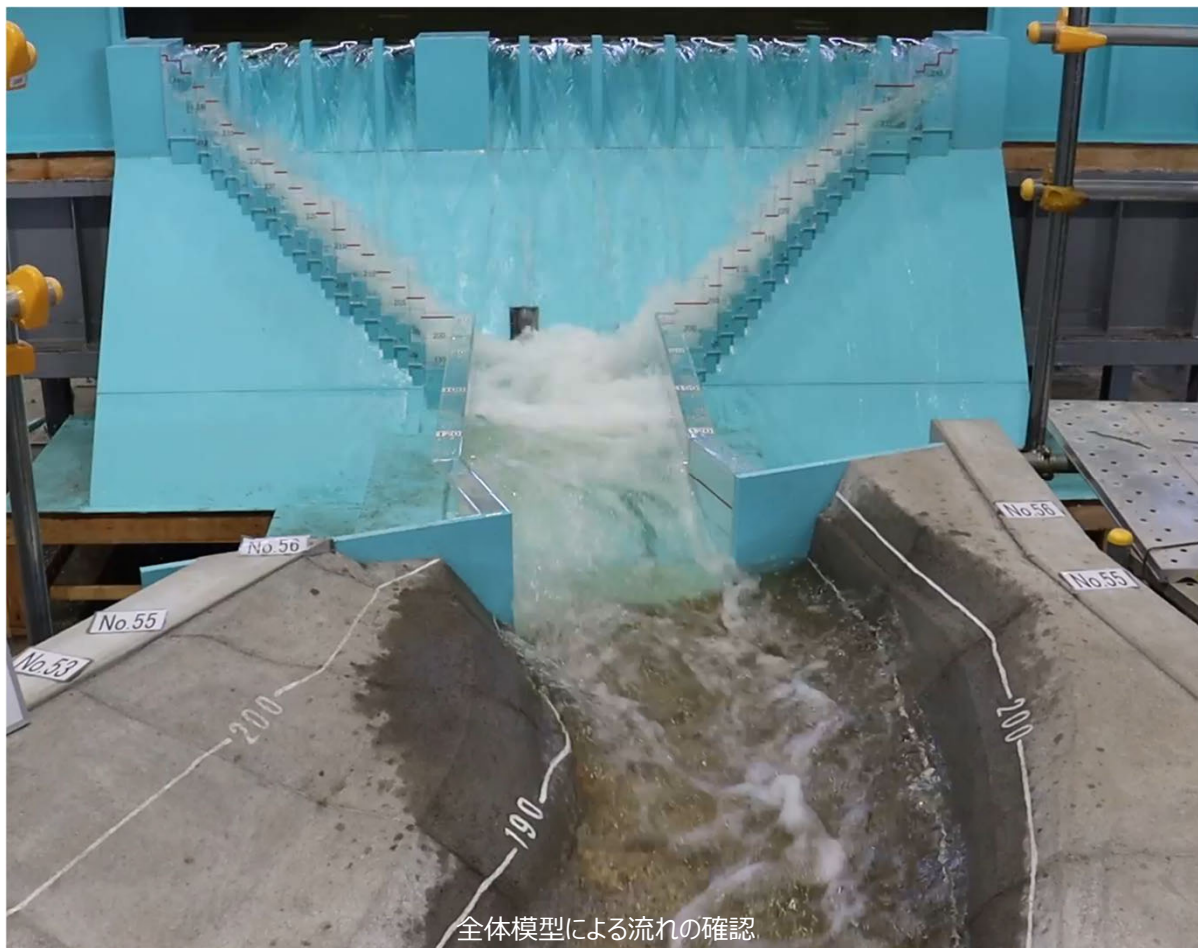
合理的なダム設計の実施



【主な実施内容】

- 令和8年度は、これまでの地質調査・解析結果等を踏まえ、水理模型実験による確認を行いながらダム本体等の修正設計を引き続き実施。

水理模型実験状況



環境保全措置等の実施



- 令和7年4月2日に大戸川ダム建設による環境影響や環境保全措置等について、これまでに実施してきた調査や予測・評価の結果等を取りまとめた「大戸川ダム環境調査結果報告書」を公表し、環境保全措置等及びモニタリング調査の実施計画（案）を作成。
- 令和8年度は、作成した報告書及び実施計画（案）に基づき、大戸川ダム環境保全委員会で助言を得ながら環境保全措置等を適切に講じ、ダム事業を推進。

第5回大戸川ダム環境保全委員会 開催概要

- 開催日 令和7年10月7日
- 開催目的 令和7年4月に公表した「大戸川ダム環境調査結果報告書」に基づき、環境保全措置等及びモニタリング調査の実施計画（案）を作成しましたので、それについての意見、助言をいただく
- 委員 大谷 一弘 環境省希少野生動植物種保存推進員【植物】
 萱場 祐一 名古屋工業大学 教授【河川工学】
 小林 圭介 滋賀県立大学 名誉教授【植物】
 坂根 隆治 日本鳥学会 会員【鳥類】
 角 哲也 京都大学防災研究所 水資源環境研究センター 特定教授【河川工学】
 前田 喜四雄 奈良教育大学 名誉教授【哺乳類】
 松井 正文 京都大学 名誉教授【両生・爬虫類】
 松田 征也 日本魚類学会・日本貝類学会 会員【魚類】
 山本 雅則 日本甲虫学会 会員【昆虫類】

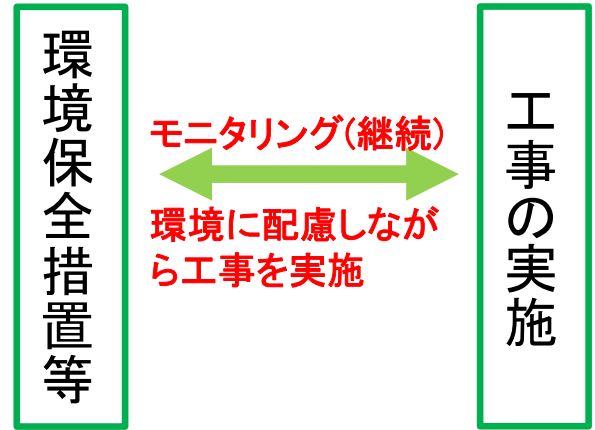


委員会実施状況

大戸川ダム
環境保全委員会

状況
報告

助言



環境保全措置等の実施サイクル

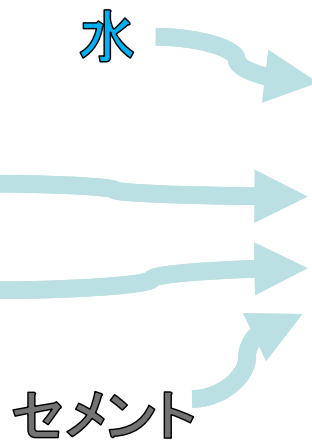
区分	実施内容	実施方法	実施箇所	実施期間
環境保全措置	コンディショニングの実施	対象つがいの繁殖（ハチクマ及びハヤブサ）に影響を与える時期に、新たに着手する場合や大きな騒音を発する工種を新たに始める場合は、対象工種のインパクト強度を徐々に高めることで、工事騒音や作業員の存在等による刺激への馴化を促す。なお、コンディショニング中は後述のモニタリング調査（監視とその対応）も実施し、調査により確認された猛禽類の反応や行動等に応じて、専門家の指導を得ながら順応的に対応する。	・ハチクマ及びハヤブサの行動圏内 ・工事期間中（ハチクマ及びハヤブサの行	・工事期間中（ハチクマ及びハヤブサの行
	営巣環境となり得る環境の創出	既往の調査結果や生態特性をもとに、カワガラスの繁殖に適した環境を整備する。	・カワガラスの行動圏内	
配慮事項	森林伐採に対する配慮	・森林を伐採する際には、必要以上の伐採を行わず、伐採区域が最小限となるよう検討を行う。	・工事区 ・林伐採	
	ダム洪水調節地区内の植生の早期回復の促進	・ダム洪水調節地区内の森林環境は、試験湛水終了後、草地や先駆的樹林を経て落葉広葉樹林に遷移すると考えられるが、在来種等の苗木育成・植栽するなど、樹林環境の早期回復の促進について検討を行う。 ・植栽する樹種の選定及び植栽箇所の検討については、専門家の指導及び助言を得ながら実施する。	・ダム洪水	
	試験湛水の実施方法等の検討	・ダム洪水調節地区内の環境への影響を低減できるよう、他の流水型ダムにおける試験湛水事例も参考に実施方法（実施時期、水位低下速度等）について検討を行う。	-	
	建設機械の稼働に伴う騒音等の抑制	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施	建設機械の稼働に伴う騒音等の抑制	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施
	作業員の出入り、工事用車両の運行に対する配慮	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施	作業員の出入り、工事用車両の運行に対する配慮	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施
	コンディショニングの実施	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施	コンディショニングの実施	対象つがいの行動圏内において繁殖期間中に工事を行う際の実施
環境保全措置等	営巣環境となり得る環境の創出	森林伐採に対する配慮	ダム洪水調節地区内の植生の早期回復の促進	

環境保全措置等及びモニタリング調査の実施計画（案）の抜粋

コスト縮減と環境保全の取り組み例



- 大鳥居地区に仮置きしている新名神高速道路のトンネル工事等から発生した掘削ずりを、ダム本体コンクリート用の骨材として活用することを検討。
- 適合試験などを行い、コスト縮減するとともに、新たな原石山開発の抑制にも寄与。



混



空気量試験



スランプ試験



強度試験



コンクリートを破壊する機械

フレッシュコンクリートを使って、各種試験を実施

地域と連携したダム利活用の未来に向けて

～大戸川ダムフェスをみんなで開催～



- 大鳥居骨材置き場において、令和5、6年度に関係間地域の交流や将来のダム周辺整備、地域振興検討の社会実験として、大戸川ダムフェスを開催。
- 令和7年度も、大戸川ダム周辺地域の活性化を目的としダムフェスを実施。参加者へのアンケート結果から、今後の期待する内容を確認し、地域の皆様と連携したダムの利活用検討支援を実施。

地域の千から 結集! 大戸川ダムフェス 2025 開催!

～地域の魅力を再発見し、地域に新たな賑わいを～

■日 時: 令和7年11月23日(日・祝)
10:00~14:30
■会 場: 大津市上田上大鳥居町
(大戸川ダム大鳥居骨材置場)
■参加人数: 約700名



サウンドフリーク



大津市エリアからの出展



栗東市エリアからの出展



甲賀市エリアからの出展



地域と連携したダム利活用の未来に向けて

～大戸川ダムフェスをみんなで開催～



地域のチカラ
結集! **大戸川ダムフェス2025 開催!**

大戸川ダム建設事業からの出展



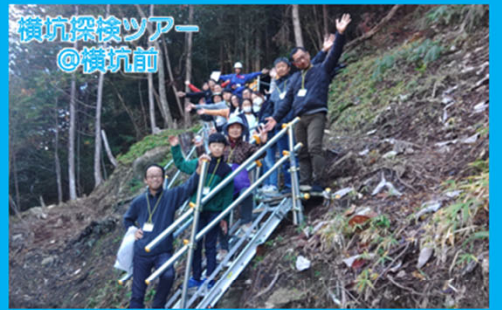
国土交通省 近畿地方整備局からの出展



防衛省 自衛隊滋賀地方協力本部からの出展



ダム愛好家の皆様からの出展



ご来場ありがとうございました!



～参加した皆さんの声(一部抜粋)～

通過点地域にならないように人が立ち寄りやすいそんなところになっていただけたらありがたい。

自然を生かした施設で、多くの子ども達に楽しんでほしい。



地域と連携したダム利活用の未来に向けて

～ダムフェス出店民間事業者らとの意見交換会開催～



- 令和7年11月24日に開催した「大戸川ダムフェス2025」に出店してくださった民間事業者の皆様や地元の皆様にお集まりいただき、「大戸川ダムフェス2025」の振り返りと今後の旧大鳥居地区の活性化について意見交換会を開催。
- ダムフェスに出店してくださった方々を対象とした意見交換会は今回が初めての試みで、各団体、各地域の皆様が持つ意見や思い、課題や今後の展望を共有。

【実施日】令和8年1月27日（火）

【場 所】大津市牧自治会館

【参加者】計22名（順不同）

上田上学区自治連合会 会長

牧町自治会 自治会長

牧町各種団体の皆様

栗東スラックラインパークyou空感

榎豆まほ

栗東市観光協会

甲賀市観光まちづくり協会

信楽町観光協会

滋賀県流域政策局

大津市建設部広域事業室

栗東市道路河川課

栗東市商工観光労務課

甲賀市建設課

大戸川ダム工事事務所

ダムや旧大鳥居地区の利活用

ダム事業地は、京都と信楽のアクセスのちょうど中間地点。海外の旅行者が途中に寄るにも絶好な場所なので信楽の焼き物や観光施設と連携した地域振興策を実施すれば、我々にとってもメリットとなる。



信楽町観光協会
奥田事務局長

旧大鳥居地区は、スラックラインに最高に適している環境。自然の中で体を動かして楽しめる拠点になればいいと思う。

山と山を渡るスラックライン「ハイライン」を地形を生かして張ることができれば、ハイラインの拠点になり、観光の目玉になるかも？



栗東スラックラインパークyou空感
林代表

大鳥居や3市が隣接するこの地域に寄り添った企画や催しをお願いしたい



上田上学区自治連合会
古市会長

ダムフェス2025について

- 子供たちがものすごく楽しんでた
- アンケート結果では栗東市からの参加者が全体の3%と少ない。栗東市の方への事前周知でもっと集客力を見込めるのでは？
- 会場が広く、施設の場所がわからなかったなので、全体の見取り図などが欲しかった。



地域のチカラ結集! 大戸川ダムフェス2025

地域と連携したダム利活用の未来に向けて

～牧地区勉強会(令和7年12月)～



- 大津市上田上牧地区では、地域が主体となった地域振興について考える「牧地区勉強会」を、令和5年度から継続的に開催。
- 令和7年12月の勉強会では、令和7年9月に開催した勉強会や、令和5&6年度勉強会で出た地域振興のアイデアを整理するとともに、大戸川ダムフェス2025で実施した来場者アンケート結果を踏まえ、「地域の課題解決の糸口」となる3つのテーマを設定。3班に分かれ、テーマごとに具体的な取り組み内容について深掘りを実施。

【実施日】 令和7年12月6日(土)
【場所】 牧自治会館
【参加者】 牧地区のみなさま
大津市建設部広域事業室
滋賀県流域政策局地域振興係
大戸川ダム工事事務所

議論テーマ① 「自然・再発見」



四季を通じて取組める内容が必要。

継続できる取組が重要。

自然や風景の魅力の再発見が必要。

サイクリングやウォーキングで訪れている人たちへの調査が必要。

議論テーマ② 「文化・郷土愛」



イベントで好評な郷土料理の販売体制構築が必要。

郷土料理の調理方法の伝承が必要。

もっと他にも地域振興で使える郷土料理があるのでは？

年配者に聞き取りをしては？

新たな観光資源を整備してはどうか？
(親水公園、キャンプ場、カフェ、物産品販売所など)

牧発電所付近に「道の駅」を整備しては？

新たな名産を作り上げる必要がある。

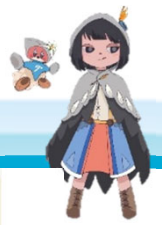
休耕田の活用について、多くの関係者を巻き込んだ取り組みができないか？

議論テーマ③ 「観光・新たな魅力」



ダムの建設予定地と淀川水系

大戸川ダムとは



大戸川ダムの特徴～流水型～

大戸川ダムとは

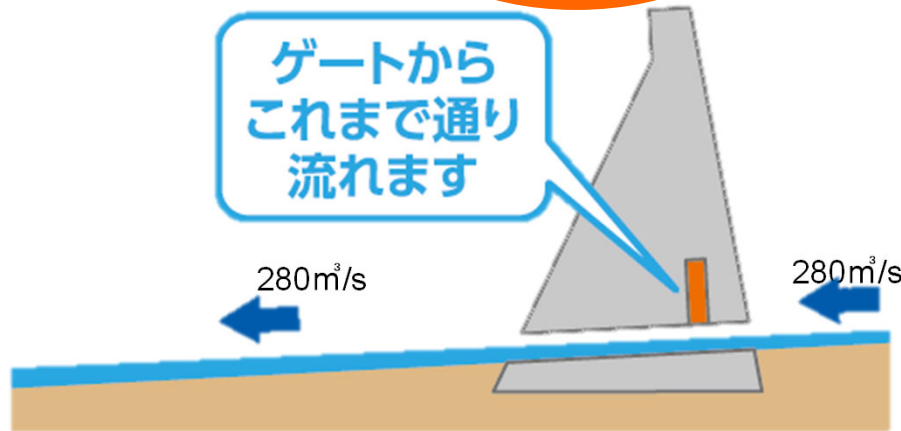


■大戸川ダムの洪水調節のしくみ

平常時

平常時は、
川の水をそのまま
流します。

ゲートから
これまで通り
流れます

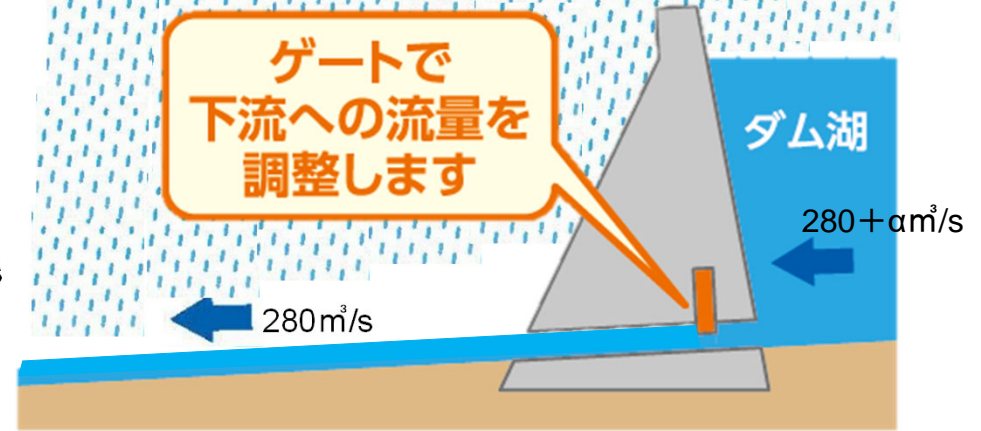


川を流れる水の量が $280\text{m}^3/\text{s}$ 以下の時

洪水時

洪水時は、
一時的にダムに水を貯め
洪水後、安全な量だけ
下流に流します。

ゲートで
下流への流量を
調整します



川を流れる水の量が $280\text{m}^3/\text{s}$ 以上の時

平常時

ダム上流も現在と
山や川の状態は
大きく変わりません

川の流れる量は現在と
大きく変わりません



洪水時

洪水時のみゲート
を閉めて上流に
水を貯めます



※ 今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

大戸川ダムの役割

大戸川ダムとは



12,480,000人が暮らす淀川水系

淀川は、琵琶湖から流れ出る唯一の河川である瀬田川が京都に入ると宇治川と名前を変え、その後、木津川、桂川と合流して淀川となり、大阪湾へ注ぐ一級河川です。淀川水系は大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、三重の2府4県にまたがり、流域面積は8,240km²にもおよび、流域には1,248万人^{*}が暮らし、大阪や京都といった大都市を擁し、国内でも首都圏につぐ経済圏を誇り、長く歴史・文化の中心地として繁栄を続けています。

「大戸川ダム」は、淀川水系の本川筋で唯一のダムである「天ヶ瀬ダム」と一体的に運用することで、下流に位置する京都や大阪を洪水被害から守る大きな役割を担っています。

©H27年国土院

何度となく大洪水を繰り返してきた淀川水系

淀川は過去に何度も氾濫を起こし、流域に大きな洪水被害をもたらし、その度に多くの人が犠牲となりました。淀川では明治18(1885)年の洪水を契機に制定された河川法に基づく近代的な治水事業に着手し、新淀川の開削や三川合流点の付替え、琵琶湖の出口における瀬田川洗堰(南郷洗堰)の建設など、大規模な事業が進められました。しかしその後大雨や台風がくると淀川は氾濫し、洪水の度に河川整備の在り方が見直されてきました。

【淀川水系での主な水災害】



明治18年の大洪水
大阪市内の大半が浸水。近代治水工事の先駆けとなる淀川改良工事が始まり、現在の淀川が形づくられた。



大正6年の大洪水
高槻市大塚の堤防が決壊。流域全体でも多くの場所で堤防が壊れ、浸水・家屋、死者が多数にのぼった。



昭和28年台風13号
宇治川定押向島地点が決壊。水害全体の根本的な治水対策が必要となり、天ヶ瀬ダムを含めたダム群の計画・整備を進めるきっかけとなった。

出典: 国土院編纂「淀川」(国土院)

「大戸川ダム」の洪水調節効果は、大戸川に始まり、瀬田川、宇治川、淀川までおよびます。



宇治川流域の現状

淀川水系で最も負担が大きい天ヶ瀬ダム

淀川本川筋唯一のダムとして長く下流域を守ってきた天ヶ瀬ダムですが、治水容量の割に集水面積が大きく、大きな負担を抱えています。平成25(2013)年台風18号では、ダム湖への流入量が限度を超え、異常洪水時防災操作(緊急放流)を行う事態となりました。



【現在の天ヶ瀬ダムの集水面積】



宇治川流域の洪水被害の軽減

天ヶ瀬ダムと一体的に運用することで、「平等院」などの世界遺産もある宇治川流域を洪水から守ります。

宇治川流域の整備効果

大戸川ダムは天ヶ瀬ダムの流域(瀬田川洗堰上流を除く)の負担を補うもので、天ヶ瀬ダムの負担軽減により、洪水調節機能を最大限活用し、宇治川と淀川の安全性向上に大きく寄与します。

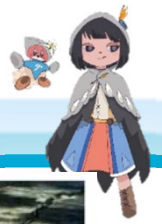
【大戸川ダム完成後の天ヶ瀬ダムの集水面積】



凡例
洪水による浸水が懸念されるエリア

大戸川ダムの役割

大戸川ダムとは

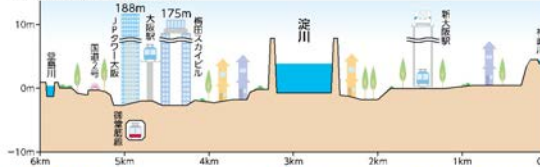


淀川下流域の現状

淀川下流域(大阪府域)には人口や社会インフラが集中しています。ひとたび洪水が起きると、人的被害の拡大や都市機能の麻痺が予想され、その影響は全国に波及すると言われています。



【大阪駅周辺の断面図】(イメージ)



淀川下流域の洪水被害の軽減

天ヶ瀬ダムと一体的に運用することで、首都圏に次ぐ大都市圏である淀川下流域を洪水から守ります。

淀川の高い堤防で守られる大阪平野

大阪平野は海拔ゼロメートル地帯で、淀川の高い堤防で都市が守られています。淀川周辺には行政機関や交通インフラが集中し、JR大阪駅はわずか1km程度しか離れていません。



大戸川下流域の洪水被害の軽減

瀬田川に合流する大戸川の下流域を洪水から守ります。

大戸川下流域の現状

古くから森林伐採で山肌が荒れ、度々氾濫を繰り返している大戸川。明治時代から治山対策事業を講じてきましたが、支川が流入する下流域などでは、浸水被害が後を絶たない現状を抱えています。



昭和57年台風10号の被害
石居橋の流出
昭和28年台風13号洪水
の羽栗橋下流(大津市橋)

大戸川下流域の整備効果

近年で最大の水害となった平成25(2013)年台風18号と同様の降雨を想定すると、大戸川ダムが整備されていた場合、大戸川の下流域で約1.4m水位を低下させる効果があり、浸水被害を大きく減少させることができたと推定されています。

【平成25年台風18号における越水による浸水範囲(実績)】



【大戸川ダムが整備された場合の浸水範囲の想定】



交通インフラ集中



新たな問題～地下空間の危険性

梅田周辺は国内有数の繁華街で、延べ面積約15haの地下街が地下鉄ともつながっています。水災害時、最も深刻な被害が予想されるのが地下空間です。近年、九州や関東では、地下施設の浸水被害が報告され、地下空間における都市水害が重要な課題となっています。



2003年7月19日 福岡市地下鉄博多駅に押し寄せた潮流
出典: 淀川-大戸川スーパー-防災拠点地図
yuyuyu52号

淀川下流域の整備効果

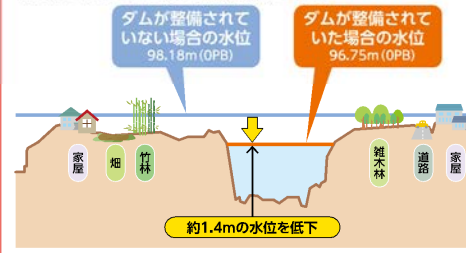
大阪駅周辺は交通インフラが集積し、地下空間が広がっています。淀川下流域の洪水調節を行う最後の砦である天ヶ瀬ダムが大戸川ダムとの一体的運用で洪水調節を负担することで、淀川下流域の洪水被害から守ることに繋がります。

上流のダムの洪水調節で成り立っている淀川下流域の安全

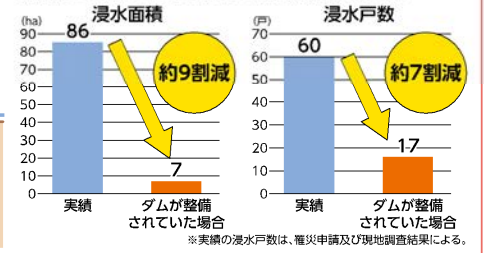
大きな災害を未然に防ぎ、淀川流域の暮らしを守るために、宇治川・木津川・桂川の合流点より上流に9基のダム・堰が配置され、各支川の洪水調節を行っています。刻一刻と変化する河川の状態を見極め、本川や支川の水位のバランスを円りながら、すべての治水施設の総力をもって流域の安全を守っています。



【大戸川ダムが整備された場合の水位低下効果】(室村橋付近)



【大戸川ダムが整備された場合の越水による浸水面積・浸水戸数の想定】



55世帯の移転で成り立つ大戸川ダム建設事業

ダム建設に伴い、浸水地域となる大津市上田上大鳥居町、上田上桐生町、甲賀市信楽町黄瀬の55世帯210人の方々が先祖伝来の住み慣れた土地を後にされました。このうち、上田上大鳥居町は集落全体での移転となり、平成9(1997)年、新たに開かれた「大津市大鳥居」への移転が完了しました。「ふるさと記念大鳥居収蔵庫」では、「消えゆくふるさとを残したい」と地元的女性が解体前の全53戸を一軒ずつ描いた水墨画など、ありし日の大鳥居の歴史を垣間見ることが出来ます。



ダム事業のこれまでの経緯

大戸川ダムの歴史



予備調査

実施計画調査

建設

- 昭和43年 予備調査着手
- 昭和53年 4月 実施計画調査着手
- 平成元年 5月 建設事業採択
- 平成 3年 3月 特定多目的ダム法に基づく基本計画告示
- 平成 4年10月 工事用道路着手
- 平成 6年10月 大戸川ダム建設事業に伴う損失補償基準協定書の締結
- 平成10年 3月 大鳥居地区(水没地55戸)の移転完了 ●
- 平成11年 6月 付替県道大津信楽線着工
- 平成13年 7月 水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画決定
- 平成17年 7月 淀川水系5ダムについての方針公表 ⇒ 利水全量撤退を公表
- 平成19年 8月 淀川水系河川整備基本方針策定
- 平成19年 8月 淀川水系河川整備計画原案公表
- 平成19年12月 淀川水系河川整備計画原案における各ダムの概算事業費を公表(事業費:概ね1,080億円)
- 平成21年 3月 淀川水系河川整備計画策定



大戸川ダムについては、利水の撤退等に伴い、洪水調節目的専用の流水型ダムとするが、ダム本体工事については、中・上流部の河川改修の進捗状況とその影響を検証しながら実施時期を検討する。
 また、これまで進捗してきた準備工事である県道大津信楽線の付替工事については、交通機能を確保できる必要最小限のルートとなるよう見直しを行うなど徹底的にコストを縮減した上で継続して実施する。

- 平成21年 7月 淀川水系ダム事業費等監理委員会 設立
- 平成21年12月 ダム事業の検証に係る検討を開始
- 平成23年 3月 特定多目的ダム法に基づく基本計画廃止
- 平成28年 8月 ダム事業の検証における対応方針決定(事業継続、事業費:約1,163億円、工期:工事用道路着工から事業完了までに8年間程度を要する見込み、工事用道路着工までに調査設計等で4年間程度を要する見込み)

- 令和 3年 8月 淀川水系河川整備計画変更
- 大戸川ダムについては、環境影響をできる限り回避・低減するための環境調査を含め、必要な調査等を行ったうえで本体工事を実施する。事業の実施にあたっては、コスト縮減や負担の平準化に努める。

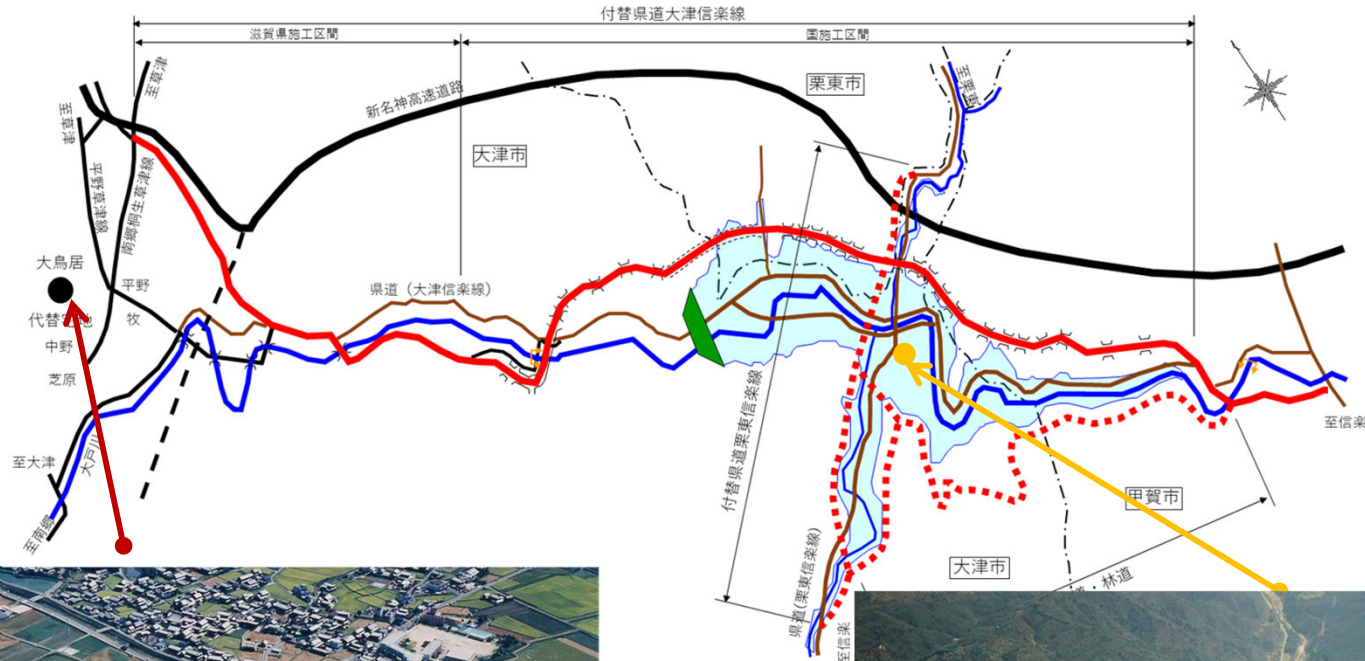
- 令和 5年 3月 付替県道大津信楽線完成 ●
- 令和 7年 4月 環境調査結果報告書公表
- 令和 8年 3月 付替県道栗東信楽線着工



大鳥居地区の集団移転



○ 大戸川ダム建設により水没する家屋の集団移転を行い、平成10年3月に移転完了。



移転後



移転前

「多目的」から「洪水調節専用」へ

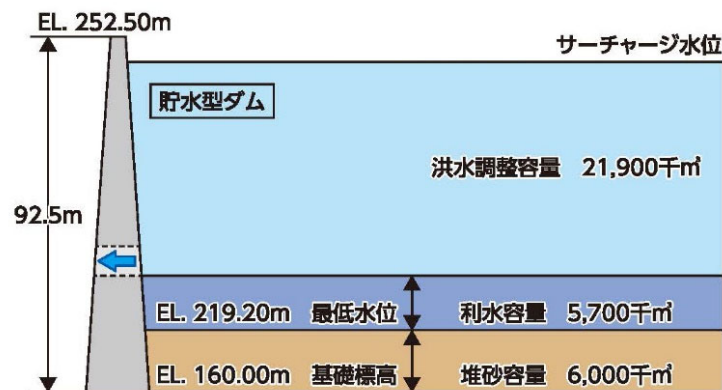
大戸川ダム歴史



- 利水事業の撤退により、多目的ダムから洪水調節専用ダムに計画を変更し、事業を進めています。
- これにより、ダムの規模を小さくし、コスト削減を図ります。
- 洪水時に一時的に水を貯留する流水型のダムであるため、平常時は現状の環境をほぼ維持します。



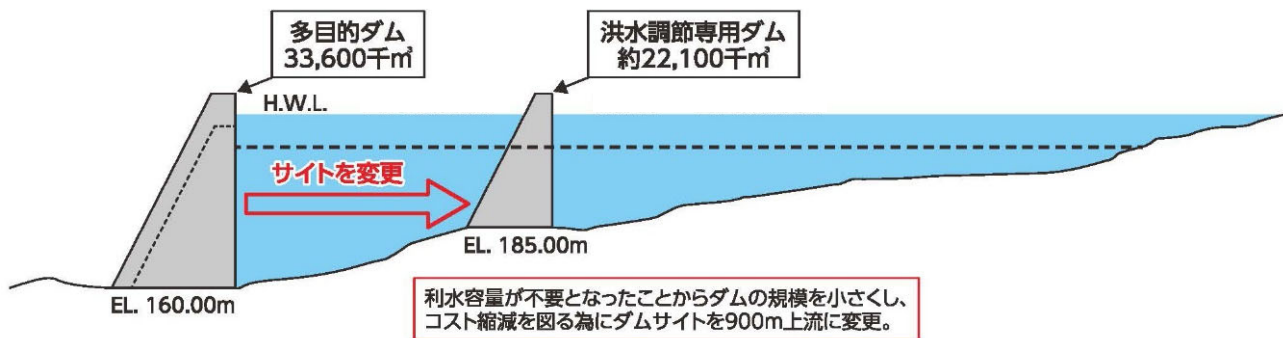
■旧ダム貯水池容量配分図



■新ダム貯水池容量配分図



■ダム比較断面図



※今後の調査・設計等により変更する可能性があります。